

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立高木瀬小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童（生徒）の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童（生徒）一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童（生徒）の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和7年4月17日（木）

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童（中学校3年生生徒）

■ 調査の内容

（1）生活習慣や学習環境等に関する質問調査

児童（生徒）に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、 基本的生活習慣、家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、 学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

（2）教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。

②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。

調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

■ 教科に関する調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は、小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語、算数・数学、理科に限られています。さらに、出題は、各教科の限られた分野（問題）です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり、「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

■調査結果及び考察

1 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(1) 結果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と肯定的に回答した児童(生徒)の割合。

佐賀市学校教育ビジョンに関連する調査項目	本校 %	全国平均 %
学校に行くのは楽しいと思う。	86.9%	86.5%
将来の夢や目標を持っている。	86.9%	83.1%
自分には、よいところがあると思う	89.9%	86.9%
学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	84.1%	84.9%

「学校に行くのは楽しいと思う」「自分には、よいところがあると思う」の項目は、肯定的な回答をした児童は全国平均よりも高い結果が出ています。

家庭学習の様子に関する調査の項目	本校%	全国平均 %
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	8.7%	12.1%
「2時間以上、3時間より少ない」	13.8%	12.8%
「1時間以上、2時間より少ない」	31.2%	29.1%
「30分以上、1時間より少ない」	33.3%	27.4%
「30分より少ない」	9.4%	12.9%
「全くしない」	3.6%	5.7%

「1時間以上、2時間より少ない」と回答した児童が約3割いるという結果です。家庭学習については全体的には全国平均とほぼ同等ですが、1時間未満の児童は4割以上います。家庭学習については、かなり個人差がある状況です。

(2) 改善に向けての取り組み

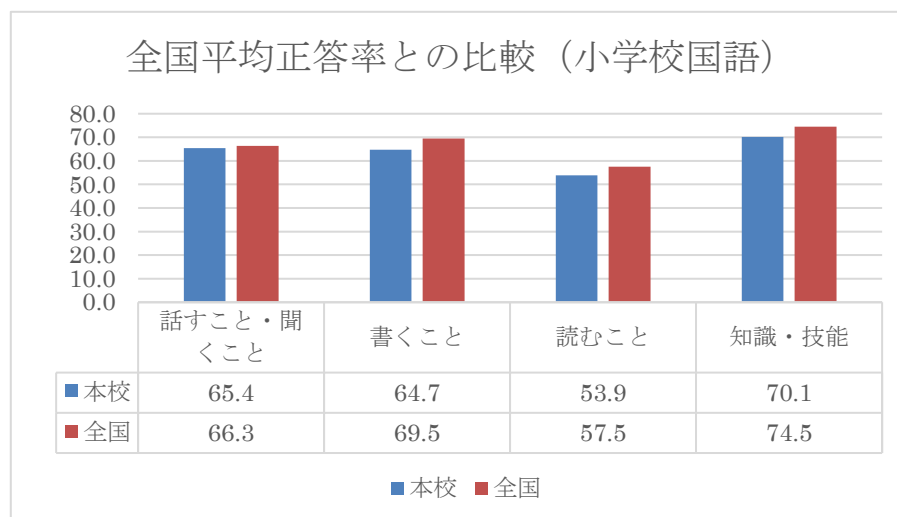
【学校では】

- 「学校に行くのは楽しい」と子どもたちが思えるように、主体的、対話的で深い学びの視点でお互いの授業を見合ったり研修をしたりして、日々授業改善を行っています。
- 自分で考え、自分で決めて、自分から行動する力を育むために、また、子どもたちの自律を促すために、児童を伴走支援していきます。「①どうしたの？何か困っている？②あなたはほしい？③先生にできることはある？」で関わっていきます。
- 家庭学習については、「習慣化（低学年）」「選択性（中学年）」「計画性（高学年）」をねらいとして児童に提示しています。自分に合った学習方法を見つけることができるようにサポートしていきます。

【ご家庭では】

- 「自律」「尊重」の力を育むためには、お子さんが困っているときには、大人の伴走支援（①どうしたの？②あなたはほしい？③私に何かできることはある？）で関わるのが大切です。
- お子さんの状況に合った学習時間を自分で決めて取り組むことができるように励ましてください。また、ゲームやスマートフォンの利用時間について、お子さんの利用状況を確認し、使い方についての約束をお子さんと一緒に考えて実践してください。

2 国 語



(1) 結 果

全体的に全国平均正答率を少し下回っています。特に、「書くこと」「知識・技能」の問題に課題が見られます。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「知識・技能」が4.4ポイント下回り、課題が見られました。タブレットドリルを活用した家庭学習に取り組んできましたが、一定の成果としては現れるには、時間を要するようです。国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの内容領域の根幹をなす言葉の力であるため、児童が自分に合った学習方法を身に付けることができるように、児童の学習をサポートしていきます。課題は、問題形式の「記述式」の正答率を上げることです。正答率 50.4%は、全国平均正答率 58.8%を下回っており、苦手としている児童が多くなります。主体的な学びの視点で授業改善を図り、児童の記述力を高めることが、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の力を伸ばすことにつながると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

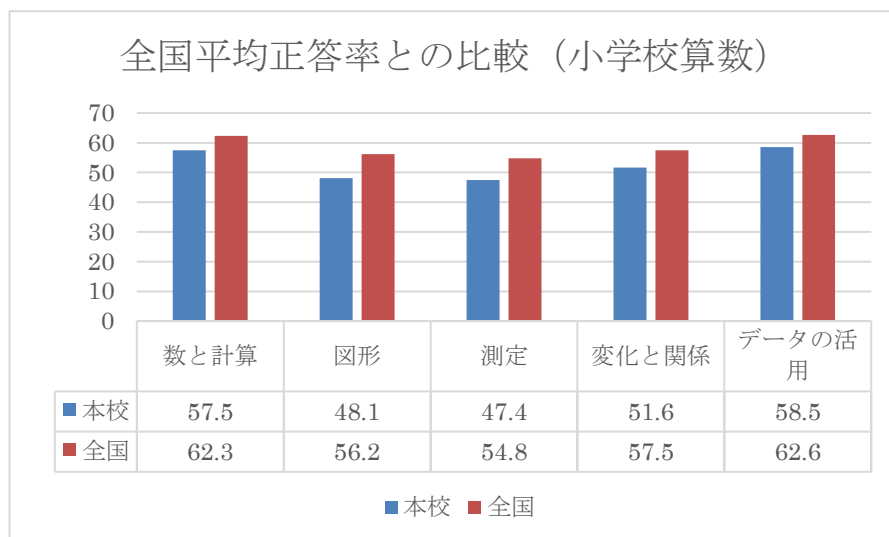
【学校では】

- 身に付けるべき資質・能力を子どもたちと共有して単元を見通した学習に臨み、視点をもって学習の振り返りを行います。
- 漢字の読み書き、言葉の学習の方法を複数提示し、子どもたちが自分にあった学習方法を見つけることができるようにします。また、家庭学習に学習用端末のドリルを引き続き活用し、基礎・基本の定着を図ります。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながら書く機会を増やしたり、インタビューや案内したりするなど、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。

【ご家庭では】

- 音読を大切にしましょう。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 読書を大切にしましょう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろんな分野の本を読み、いろんな表現や用語にふれることで、「読む」を楽しめるようになります。おうちの方と一緒に活字に触れる時間をつくること、市立図書館や本屋に定期的に行くことも、お子さんの読書習慣をつける上でおすすめです。

3 算数(数学)



(1) 結果

全体的に全国平均正答率を少し下回っています。特に、「図形」「測定」の問題に課題が見られます。

(2) 成果と課題

今回の調査では、領域別に見ると課題は多いものの、5年時の県調査の結果から比べると記述式の問題の正答率が伸び、授業を中心に書く機会を増やしてきた成果が少しずつ表れています。

「数と計算」の領域では、分数のたし算やひき算をするために必要な通分について課題が見られました。計算の技能としての通分はできるものの、通分の仕方や意味を図や言葉を使って説明する問題の正答率が低くなっていました。「変化と関係」の領域では、ハンドソープの内容量の増量分を割合で示した問題について、正答率が約30%にとどまりました。算数の学習が日常生活に生かすことができる事例の一つであるため、学習したことを活用して問題に取り組む学習を、さらに大切にする必要があります。

(3) 学力向上のための取り組み

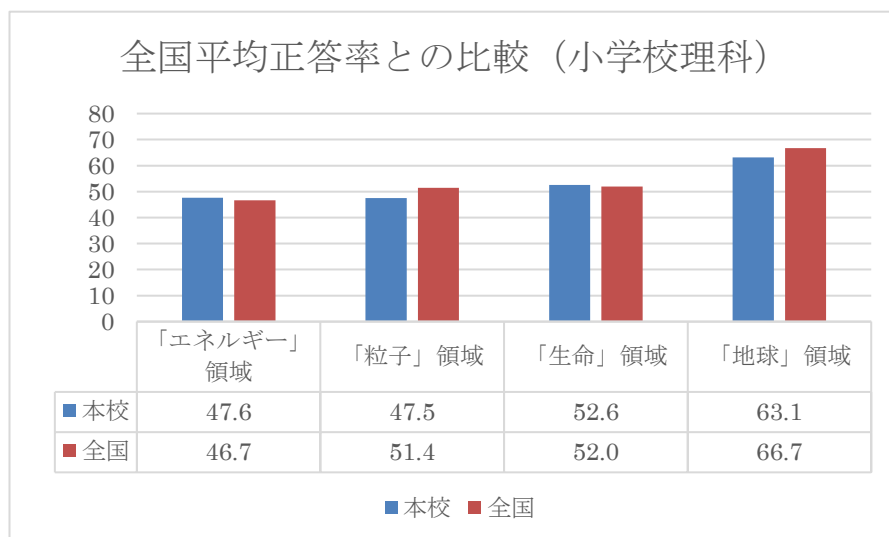
【学校では】

- 身に付けるべき資質・能力を子どもたちと共有して単元を見通した学習に臨み、視点をもって学習の振り返りを行います。
- 式から答えを出すだけではなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を行き来させるようにします。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 算数を好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。生活場面で算数を使ってみてください。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」など、ちょっと意識するだけで、身の回りには算数を使えるものがたくさんあります。

4 理科



(1) 結果

領域ごとにばらつきはあるものの、ほぼ全国平均と同等の結果でした。「粒子」「地球」の領域については、全国平均を少し下回っています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、短答式の問題の正答率が全国平均正答率を1.8ポイント上回っていました。また記述式の問題についても全国平均正答率を1.4ポイント上回りました。

「電気」についての学習については、全国平均正答率を上回っており、3～5年生での学習内容を理解できていると考えられます。自然現象から得た情報を、他者の気付きも含めて多面的に分析して、解釈し、自分の考えを記述する問題が全国平均正答率を下回り、課題が見られました。観察・実験結果を基にしたグループでの話し合いを行い、考察を導き出す活動が重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 理科の学習過程を「事象提示→課題→予想→実験・観察→結果→考察→課題・・・」とし、一貫した学習指導を行うことにより、児童の思考力、判断力、表現力を向上させます。特に実験の結果を記録したり、結果から分かることを話し合ったり、書いたりする活動を大切にします。
- 顕微鏡などの実験・観察器具を、できる限り一人一人扱うことができるようにし、体験的に学ぶことができるようにしていきます。

【ご家庭では】

- 理科が好きになる場合も、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。星空を見上げて星座の話をしたり、コップの結露の理由を考えたりすることで、習ったことと日常生活での現象を結びつけると理解が深まることもあります。
- 佐賀県立宇宙科学館や佐賀県立博物館などのイベントチラシ等も配布しております。お時間があるときに一緒に行ってみることで、興味関心が向上することもあります。